

第 37 回日本肝胆膵外科学会学術集会 NGP 活動報告③

Panel Discussion 4

「Thinking about Sustainable HBP Surgery with Young Surgeons (Beyond Work Style Reform)」

司会：藤井 努 先生（富山大学）、沖永 裕子（都立駒込病院：NGP-WG member）

演者：①小齊 有希子 先生（福岡市民病院：NGP-WG member）②大島 稔 先生（香川大学）③梅澤 早織 先生（聖マリアンナ医科大学：NGP-WG member）④宮下 眞理 先生（東京大学）⑤木村 隆 先生（福島県立医科大学）⑥藪下 泰宏 先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

Panel Discussion 4「Thinking about Sustainable HBP Surgery with Young Surgeons (Beyond Work Style Reform)」の座長を富山大学の藤井 努先生と共に務めさせていただきました。

まず Keynote Speaker である小齊 有希子先生より 2021 年に Next Generation Project-WG が実施したアンケート調査の結果が報告されました。次世代肝胆膵外科医の多くが高度な手術技術の習得と研究活動に高い意欲を持っている一方で長時間労働や不十分な研修機会に直面している現状が浮き彫りとなりました。大島 稔先生からは、香川大学で導入された夜間・休日手術に対するインセンティブ制度についての紹介がありました。この制度により病院収益が増加し、外科医一人あたり年間平均 18 万円の報酬増にもつながったとのことで、大学病院としての報酬改善の取り組みに聴講者から高い関心が寄せられました。梅澤 早織先生は聖マリアンナ医科大学における Nurse Practitioner (NP) 導入によるタスクシフティングの取り組みを紹介されました。中心静脈の抜去や内服薬の処方など、従来若手医師が担っていた業務を NP が担うことで、若手医師の研修環境の改善が得られましたが、一方で、業務を通して得られる周術期管理の経験が不足し、必要な技術・知識の習得に影響を与える可能性について質疑応答で論じられました。宮下 眞理先生は、MIS 手術における FASTOL プログラムの導入や、移植診療の主治医制から当番制への移行の取り組みを紹介されました。木村 隆先生は造影 CT の DICOM データを用いた手術記録作成の新たな手法を紹介されました。実際のデータを活用することで、手術記録の正確性と作成時間の短縮が期待される有用なアプローチとして注目を集めました。最後に藪下 泰宏先生が医療の質の維持、働き方の改善、及び若手肝胆膵外科医の資格取得に向けた教育の両立を図る取り組みを報告され、医療の質の向上に症例の集約化が重要であることにも言及されました。

総合討論では「若手医師が十分な症例経験を得られていると感じるか」、「外科医の満足度向上に必要な要素は何か」といったテーマが討論されました。肝胆膵外科は従来長時間手術と緻密な周術期管理が求められる分野であり、パネリストからは、そうした専門性と献身に

みあった適切な報酬の必要性を訴える声が多く聞かれました。2024年に始動となった働き方改革から1年が経過し、全国各施設の修練環境改善に向けた確実な変化と本邦の肝胆膵外科修練環境の‘現在地’がみえたセッションでした。今回報告されたアンケートは2021年に実施されたものであり、働き方改革始動を経た数年後の再調査と結果の変化が期待されます。

最後に、本セッションの共同司会で温かく御指導下さった藤井 努先生、ご講演いただいた先生方、そして本企画をお任せ下さった会長の調 憲先生に心より御礼申し上げます。

(文責：冲永 裕子)